

日本建築学会農村計画ワークショップ

## 環境資産の継承と 集落共生デザイン

宮城県登米市の町並みと  
炭焼き小屋を中心に

- 日時 11月25日(土)～26日(日)
- 会場 登米町森林公園ほか
- 問合せ 大沼正寛  
(東北文化学園大学住環境デザイン学科  
num@ept.tbgu.ac.jp / 022-233-3152)

- 主催 日本建築学会農村計画委員会集落共生デザイン小委員会  
主査：伴丈正志（長崎総合科学大学）
- 後援 宮城県登米地方振興事務所、登米市、みやぎ北上商工会、  
宮城大学地域連携センター、登米町森林組合

### ■ 活動概要

視察調査に基づく地域空間デザインと継承プログラムの提案

### ■ プログラム

[11月25日(土)]

09:30

11:30

13:00-15:00

16:00-17:00

17:00-19:00

19:00-21:00

21:00-

[11月26日(日)]

10:00-

12:00

12:00-13:00

13:30

### ■ 参加費

JR仙台駅東口・代々木ゼミナールビル前集合  
貸切りマイクロバスにて移動

登米町観光拠点施設「遠山の里」到着  
昼食（各自）

1. 現地見学（まちとやまの、モノとワザ）

1) みやぎ明治村（城下町）の視察

2) 北上川と羽沢集落の視察

3) 百年の森と炭焼き施設の視察

2. 住民との意見交換

3. 集落空間計画づくり

4. 討論（夕食含む）

5. その他（続・集落空間計画づくり）

1. 炭焼き体験見学と計画案修正

成果発表（時間は変更あり）

2. 昼食会（時間は変更あり）

現地解散（JR仙台解散16:00頃）

会員1,500円、登録メンバー1,800円、

会員外2,000円、学生1,000円（資料代含む）

この他、宿泊費・懇親会費など1万円程度要

詳細は、農村計画HP <http://news-sv.ajj.or.jp/nouson/s0/> を参照



持続可能な地域空間形成の計画論の豊富化を図り、同時に検討成果を地域に還元することを目的として、民家、樹木、水系、山林など、環境物が複合・集合して良好な居住環境および景観を有している宮城県登米市登米町（とめし・とよまちょう）地区を対象にこれらを保全・継承する計画づくりを、研究者・学生と地元住民とのワークショップ形式で行う。

北上川が縦断する登米町地区は、右岸は藩政期に仙台藩伊達氏御一族が治めた要害、左岸は森林・山村地域となっている。要害の城下町には旧来の武家屋敷・古建築をはじめ、登米尋常小学校（重文）、旧水沢県庁舎（重文）、旧登米警察署（重文）など多くの歴史遺産が存している。一方、山林地区では、同町の森林組合らが杉の単一植林問題にいち早く改善策を打ち出すとともに、現在では、炭焼き技術や森林療法を含む山林の多面的活用プロジェクトが進んでいる。さらに、その結節点には、羽沢集落と分校跡もある。

このように、まち/やまの双方とも、住的、農的、そして人的な環境資産を有しながらも、当該地区は少子高齢化における小集落の共生、合併による市域での共生、仙台をはじめとする都市部との共生において課題を残している。これら資産を活かした将来的な地域づくりについて、地元住民・行政関係者と共に構想・検討を行い、今後の農村計画の役割を展望したい。